

都会の中学生&高校生を受け入れてみませんか？



民泊家庭を募集します!!



南九州市には、毎年たくさんの修学旅行生が県外から訪れています。

修学旅行と聞くと、施設見学というイメージがあるかもしれませんが、今、南九州市では修学旅行の一部として、『田舎体験』の受け入れを行っています。

平成26年度は1,048人の生徒を受け入れました。

受け入れる生徒は、1軒に3～4人を基本とし、「そのときある仕事」「できる仕事」「命の大切さ」を中心としたそれぞれの家庭の“日常の暮らし”を体験していただきます。受け入れの条件はありませんので、農家以外の家庭も大丈夫です。特別なサービスはいりません。

『民泊』を初めて聞いた方や「興味はあるけど、どんなものか知りたい」という方に、その様子を一部紹介します。

ある学校の様子(時間は学校によってさまざまです)

1日目



到着・受入式
午後4時30分



受入家庭と子どもたちとの対面。最初はみんなドキドキ。



入浴
午後7時



お風呂でゆっくり体を休めます。地元の温泉に行くこともあります。



団らん
午後8時



子どもたちとひとときの団らん。身近な出来事などいろいろ。



夕食
午後6時



今晚のご飯は自分たちで。おいしい旬の素材を生かした田舎料理は抜群の味。普段は食べない食材もとってもおいしくて、どんどん箸が進みます。



就寝
午後11時



まだまだ話し足りないけれど、明日に備えておやすみ。

2日目



朝食
午前8時



鳥のさえずり、風や木々のざわめきなど、都会では聞こえない音で目覚める朝。地元では当たり前のことが、子どもたちにとっては全てが感動体験。これからの作業に備えて、朝からたくさんご飯をいただきます。



農業体験
午前9時



いよいよ、農業体験。茶摘み、芋苗植え、田舎料理づくり、非常食づくりなど、それぞれの家庭でその時の季節の作業に取り組みます。作業を通して、農業の大変さや食べ物大切さを実感。



お別れ式
午後1時30分



あっという間の2日間。

「ありがとうございました」、「また来るね」、そんな声があちこちから聞こえてきます。

市内ではこのような活動をされている方々が50世帯ほどいます。普段どおりの生活に家族が増えたという気持ちで接しています。

受け入れを通して、子どもたちと触れ合うことで、自分が元気になり、地域が元気になり、そして市が元気になります。



受入家庭のコメント

子どもたちにとっては楽しく過ごしてもらいたいのので、「ここに来て良かった」と良い思い出ができて、少しでも心に残るものがあればいつも考えて接しています。お金をかけてご馳走をすることは簡単ですが、できる限り我が家の食材で郷土料理を出す事に努めています。別れ際に、「まだここに居たい」と言ってくれたり、後から送られてくる手紙でのお礼の言葉が私の宝物です。

(知覧町Yさん)

川辺町大丸地域では自然豊かで地域のために頑張る温かい人々にあふれています。私の母校である児童数16人の大丸小学校は国立公園のように美しく魅力ある学校です。こうした環境を都会の子どもたちに見て触れてもらいたいと民泊受け入れを始めました。大丸小の児童と一緒に稲刈りや脱穀、芋掘りなどの農業体験、田舎暮らし体験を「もう帰りたくない」というぐらい、いっぱい味わってもらいます。

(川辺町Hさん)

民泊を始めて5年になります。年7～8回中学、高校生の修学旅行生受け入れを行っています。鹿児島島の自然に触れてもらうのはもちろん、さまざまな田舎体験、地域の人との交流を味わってほしいという思いでやっています。わずか1泊か2泊ですが、別れるときの彼らの笑顔と涙は私たち夫婦の生きがいになっています。

(川辺町Kさん)



民泊体験での生徒・先生の手紙

・二日間と短い時間でしたが、普段することのない「芋掘り体験」や「非常食の料理を作る」などの貴重な体験をさせてもらい、日常生活での考え方、物事の見方が変わるきっかけとなりました。

・民泊で感じたことは、お父さんやお母さんがとても優しく、家族のように接してくれてとてもうれしかったです。「現在の日本に足りないものはこれだ!」と思いました。

・私の家は、あまり夕食をみんなで食べたりしないので、帰ったらみんなで食べようと思います。

・kagoshimaめっちゃ楽しかった(笑)

・2泊3日という短い時間でしたが、食べ物を大切にしないといけないという意識が一段と強くなりました。この経験をいろいろな場面で生かし、また、たくさんの人に伝えていきたいです。

・修学旅行の思い出がよみがえってきたようで、“楽しかった”“楽しかった”と何度も繰り返していました。宝物のような思い出をつくってくださり本当にありがとうございました。(先生)

・「修学旅行の中で1番楽しかった事は?」という質問に対して、誰もが「民泊」と答えます。たくさんの貴重な体験、お話しなどをしていただき本当に感謝しております。(先生)



民泊ってどんなもの?

交流とコミュニケーションが目的であるため、民宿のようなお客扱いせず、家族の一員として扱います。子どもたちには本物の作業を手伝わせ、しっかり話をします。

食事は地産地消にこだわり、共同で料理をするなど、普段どおりの暮らしの中で子どもたちと一緒に過ごします。

豪華な料理を作り、準備・片付けをしてあげるなど、至れり尽くせりする必要はありません。

Q.農家ではないのですが、受け入れできますか?

A.農家、非農家は問いません。農業体験でなくても田舎体験でもOKです。

Q.民泊受け入れをするといくらくらいもらえるの?

A.受け入れの内容にもよりますが、1泊2食で子ども1人当たり6,000円程度です。(1回につき、子ども3～4人を受け入れます)

Q.子どもたちが怪我をした時などに備えて傷害保険に加入したほうが良いですか?

A.傷害保険はNPO法人エコ・リンク・アソシエーションで一括して加入します。※自動車保険は個人で加入してください。

体験例

非常食

「もしも」...

大きな災害があった時に、無い無いづくしで、全てのライフラインが断たれた時。どんな時でも、人は生きていかなければなりません。抗菌の生活用品に囲まれて育った若い人たちにとっては考えられない状態になります。

そこで、非常食レシピを作成し、乾パンやじゃがりこなどから卵とじやポテトサラダを作ったり、お米を厚手の袋で炊いたりして非常食づくり体験を行います。



南九州市グリーン・ツーリズム協議会では、受入世帯を募集しています。少しでも興味を持ったら、お気軽にお問い合わせください。あなたも「感動体験」を共有しませんか?

皆さんの申し込みを心からお待ちしています。

【お問い合わせ】[知](#) 商工観光課 交流推進係